

「人間味のある接し方」

校長 高田 晶子

つい最近まで真夏日の予報を耳にしていました。秋の訪れはまだかと、気になっていましたが、空に浮かぶ雲の流れから秋の空を感じるようになりました。2学期の教育活動は順調に実施しており、体を使って体験したことは、座学だけが学習ではなく、経験したことからの繋がりで学習が深まるという成果が見えてきています。本校では、帰りの会で一日の生活の「振り返り」を書き留めるということを行っています。その成果が少しずつ表れ始めてきました。



さて、コロナ禍での医療従事者のドキュメント番組で、印象に残った言葉があります。治療の中で一番大切なことは、というインタビューに、「人間味のある説明をすること」だと語っている場面がありました。「医者が状態だけを淡々と話しても、患者や家族は救われない」のだそうです。家族（相手）のことを思って、考えて説明していくことが大切な治療なのだと言われていました。

では、“人間味”とはどういうものでしょうか。・・・人間らしい温かみであり、人の内面を指す言葉で、人としての豊かな感情や思いやり、優しさがあるという意味があります。

どんなに忙しく辛い立場で仕事をしていても、人間味のある接し方や言葉がけで心が救われる人も多いはずです。相手のことを考えて伝えるのは、難しく考えるのではなく、相手を思うことが一番大切なのだと思いました。

人間味のある接し方をしていく上で、言葉や表情から受け取るものが多くあります。人それぞれの味が出てきて、人間らしさが増していくように思います。しかし、最近の若者言葉は、人間らしさどころか、一言で片付いてしまい驚きました。これでは人間味を感じるどころか、表面だけしか伝わらないのではと思うのです。

「やばい」という言葉を皆さんはどのような時に使われますか？不都合が生じた時に「困ったな、やばいな」とか「それはやばいんじゃない」といった感じでしょうか。

どうしよう、と使っていた「やばい」が、今では、「これ、やばい！」と言って“とてもおいしい”を表現していたり、「これ、やばい！」と行って、“これ、最高”と表現したりします。辞書にも載っています。凄い、美しい、綺麗だ、楽しい、嬉しい、悲しい、面白い・・・などの感情を「やばい」の一言で言われたら、私はどのように理解できるのか少し不安です。やはり、豊かな感情表現は人間味のある接し方に繋がるのだらうと考えます。

これから、食べ物のおいしい季節です。「この焼き芋、やばすぎる」とは言いたくないと思うこの頃です。